

国際協力の現場からの メッセージを教室へ

今回は海外駐在員の
経験談をもとに
先生たちが授業作りに
挑戦したよ。



1枚の写真が
豊かな教材に
なるんです！

JICA札幌開発教育/国際理解教育指導者研修(実践編)報告

(JICA札幌/市民参加協力課 仲沢真理子)



みんなで授業作り。
生徒に伝えたい
メッセージとは？

教育大生も
加わり活発に
話し合われました

11月22日(日)、JICA札幌開発教育/国際理解教育指導者研修(実践編)が行われました。「リソースパーソンからの情報を基にした授業案作り」が今回の主題で、昨年度ネパールでの海外研修に参加した帯広市立稲田小学校の越智先生から自作教材を発表したあと、JICA札幌からネパールとセネガルに駐在した経験を持つスタッフがそれぞれ情報提供し、参加者たちが思い思いの授業案作りに挑戦しました。



先生たちの手で
すてきな授業案が
生まれました！



作業開始から1時間半後、7つの授業案が誕生！「つながる、セネガル(小学生向け)」と題し、セネガルに暮らす少年の写真を通して彼らの生活を想像し、どんな時にうれしい気持ちになるのかを考える授業案や、「ケーガルネ?~さあ、君ならどうする~(中学生向け)」と題し、ロールプレイを通してネパールの道路や水道プロジェクトをめぐる問題について考える授業案が飛び出しました。

研修に参加された先生方からは、「みんなで意見を出し合いながら授業案を作るのは大変だけど勉強になる」、「研修を通じて全道の先生方とつながることができるのが魅力」との感想をいただきました！今年度最後の指導者研修は、2月27日(土)を予定しています。たくさんのご参加をお待ちしております。(詳しくはJICA札幌HPにて！)



いろんな町で
国際協力の輪が
増えていくと
いいね！

国際協力を日本の文化に 東川町にネパール人がやってきた！

東川町では、JICAの草の根技術協力事業を活用して、「ネパールにおける薪・灯油代替燃料技術の支援と普及」事業を2009年度から3年間の予定で行っています。今回、10月中旬から約1カ月、ネパール人3名が日本にバイオマスブリケット(自然物再生固形燃料)の技術研修にやって来ました。滞在期間中の10月26日(月)から30日(金)は東川町に滞在



▲ネパールに負けないうら北海道も自然が豊かですなえ！

し、周辺のストーブ工場や町内のもみ殻利用施設で固形燃料の燃焼技術や炭化の研修を行いました。また、10月29日(木)の夜には東川町で文化交流会を行い、ネパール料理の試食やネパールの紹介。滞在中は、東川町の町長はじめ、多くの町民の方に温かく迎えてもらい、とても思い出深い滞在となりました。



▶日本スタイルも
なかなか様になるでしょ？

▲「ナマステ!!」民族衣装でのごあいさつ

(NPO法人 北海道新エネルギー普及促進協会NEPA/大野 百恵)